

第7回 怪奇！妖怪漫画の沖縄！！



妖怪漫画の第一人者・水木しげる氏の代表作「ゲゲゲの鬼太郎」のアニメで、キジムナーが準レギュラーとして出演していたように、妖怪漫画でも沖縄は大きな存在感をもっています。

今回は、ハロウィンの月だということなので、妖怪漫画のジャンルで見た沖縄を紹介していきたいと思います。

ちなみに、妖怪とは何？ という定義が問題となりますが、ここでは物の怪から始まり、吸血鬼や死後の世界の番人まで広く解釈して取り上げておきます。



「ゲゲゲの鬼太郎 ～煙羅煙羅～」(水木しげる/著 中央公論新社刊)

第97話～第101話までの中で、シーサーが準レギュラーとして活躍する。身体を回転させて地面を掘り進むシーサーの技は、危機に陥った鬼太郎たちを救う。

「鬼太郎国盗り物語2」(水木しげる/著 角川書店刊)



地球制服を企むムーの総理大臣が宣戦布告。鬼太郎打倒のため、妖怪たちを送り込んでくる。

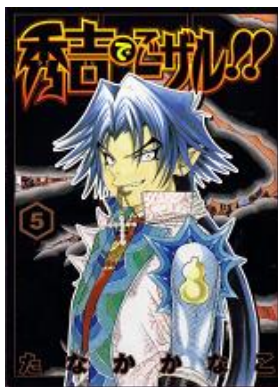
第12話「ゴーストカー」に登場する妖怪・ゴーストカーの正体が、沖縄の妖怪ボゼだったということをはじめ、本書では沖縄が舞台となる話が盛り込まれている。準レギュラーのシーサーも登場する。



「闇の末裔」第6巻(松下容子/著 白泉社刊)

冥府で死者の生前の罪を裁く十王庁の閻魔庁召喚課で働く死神・都築達は、赤嶺千鶴たちを手伝うため、沖縄を訪れる。果たして、リゾートホテルの圧力で経営困難となっている民宿の幽霊騒動を都築達は解決できるか？ シーサーが登場しています。

花と夢 COMICS の少女漫画ですが、沖縄特産のお菓子がいっぱい紹介されています。



「秀吉でござ〜る」第5巻(たなかかなこ/著 集英社刊)

登場人物の1人、千利休は、海で遭難した際に海底で妖怪亀? と遭遇、以後行動を共にするようになる。この妖怪亀? は、「憑き鬼神」といい、その正体は、古代琉球貴族の霊の集合体とされている。沖縄の創作妖怪か?



「MEAN 遥かなる歌」第2巻(原作/長谷川裕一 作画/栗原一実 講談社刊)

地味な高校生・日暮夏鳴は、スーパーアイドルMEANとしての顔を持つだけでなく、クラスメートの西表山音とともに凶暴なノッカーズや異世界の存在と戦うスーパーヒロイン。

アイドルユニット結成後、最初の仕事としてグラビア撮影のために沖縄に赴くが、そこで人魚型獣人セイレーンに襲われる……

妖怪物というよりもSFかな? 区別がややこしい。



「ニライカナイ ~遥かなる根の国~」全6巻(岡田芽武/著 講談社刊)

ロシアの宇宙ステーション「ミール」を襲った異変。琉球王朝時代から続く、神人と悪霊との戦いは、その力を手に入れようとする米国の謀略と絡み合っ大異変へと発展する……。

沖縄方言をふんだんに取り入れたこの作品。

沖縄各地が舞台になっていて興味深い。

なお、作中では、沖縄の石敢當(魔除け)を通過してたどりつける神の住む地が、ニライカナイとされている。



「ゆうれい小僧がやってきた ~決戦! 世界妖怪編~」下巻 (ゆでたまご/著 集英社)

猿・河童・豚の3つの頭を持つ「三面地獄」という沖縄出身の善行妖怪が登場する。物語は、百太郎と琴太郎の二人の中学生が合体した亜鎖亜童子という善行妖怪が、悪行妖怪を退治して

いくというものだが、西洋妖怪のなぐりこみを受け、三面地獄など7人の日本妖怪とともに決戦を挑むというもの。

登場する妖怪はすべてオリジナルか？

沖縄が世界規模で妖怪同士の最終決戦の舞台となった作品が「**うしおととら**」全30巻(藤田和日郎/作 小学館刊)である。



物語の終盤、沖縄の海底に封じ込められていた大妖怪・白面が復活。日本全土から集結した妖怪、自衛隊、米軍、法力の修行僧集団、霊界……などなど、すべての力を集めて、獣の槍を持つ少年・うしおは、とらとともに、日本の未来をかけて大妖怪・白面に立ち向かう!!

30巻に及ぶ長大なストーリーは、日本各地を妖怪との闘いで巡る旅として描かれているのだが、ぐいぐい引き込む展開には最大級の賛辞を贈りたい。

なお、**第23巻**では、番外編として、西表島を舞台としたショートストーリー「**満月**」が収録されています。

現代に甦る吸血鬼ストーリーが「**BLOOD+(ブラッド・プラス)**」全5巻(著/桂明日香 原作/プロダクションI.G・Aniplex 角川書店刊)。



沖縄に暮らす女子高生・音無小夜。父と兄弟と一緒に暮らす少女の悩みは、1年以上前の記憶を一切失っていることだった……。

歴史の裏で展開される人類と吸血鬼=翼手との戦いと小夜の関係とは? ……。

本書は、アニメのコミック化。小夜の通う学校は、コザ商業高校となっています。

女の子に人気のアニメ「プリキュア」でも沖縄が舞台となった回があったように、少女漫画や少年漫画でも、沖縄を舞台に展開するエピソードが少なくありません。



それは、妖怪漫画でも同じで、「妖界ナビ・ルナ」(菊田みちよ/著 池田美代子/原作 講談社刊)第3～4巻の舞台は、作中では断定していないのですが、原作者があとがきでモデルは沖縄と言っているだけの雰囲気を漂わせています。

第3巻では、「悠久の玉」を求めて旅立った妖怪と人間のハーフ・竜堂ルナ。果南島を訪れたルナは、島の青年・幹太郎と仲良くなり、「島の御霊」が眠るといふ禁断の洞穴へ入ったが、樹木と化した人間たちに襲われたりして。そして、幹太郎の正体は妖怪キムナだった。



「人魚王子」(尾崎かおり/著 新書館)

島に嫁いだ姉に連れられて一緒に来た少年・麦。父親の再婚という出来事に揺れる真鳥。

互いに複雑な家庭環境を背負って揺れ動く二人の心。

そんな中、麦の姉の夫・光太郎が、ダイバーを助けようとして海で流され行方不明になる。

絶望視される中、麦と真鳥は、出会った人の願いを叶えてくれるという人魚を探すため、「人魚の穴」という断崖下の洞窟へと向かう……。

舞台は宮古島です。



「マーメイドボーイズ」全3巻(さらちよみ/著 講談社刊)

人魚の国の王子・ナルは、一目惚れした人間の少女・波に会うため、魔術師メロウに頼んで人間にしてもらうが、1年以内に結ばれないと泡になってしまうと言われてしまう。

恋した少女・波の家に居候することになったものの、思いはなかなか伝わらず……。

人間になった人魚の王子・ナルの前に次々と現れる謎の男。彼らも実は人魚だった。魔術師の陰謀が渦巻く中、ついに人魚の許嫁モアナまで人間になって上陸してきた。未完結作品。

舞台は宮古島です。



「亜人ちゃんは語りたい」第7～10巻(ペトス/著 講談社刊)

亜人を「デミ」と呼ぶ、様々な非人間が共存している別の現代世界の物語。

主人公は亜人に興味関心を持ちながら高校教師として、生徒の亜人たちの心のケアなどをしている

第7巻から沖縄からきた生徒としてキジムナーが登場するが、キジムナーの言い伝えから亜人に関するとんでもない理論が導き出される。



「えとたま」第2巻(原案/吠士隆&是空とおる 原作/白組&タブリエ・コミュニケーションズ 漫画/永野広真 KADOKAWA)

ちょっとだけ動物を模した神の使い、えと娘。男子高校生の天戸タケルは、秋葉原の訳アリ物件で一人暮らしを始めるが、そこに先に住み着いていたのは、猫のえと娘だった。

2巻では、干支神ウリたんの守護する沖縄が舞台。

ハブ対マンガースとか、シーサーとかのネタの他に、ちゅら海水族館も出てきます。



「ラッキーキャッツ ルアーフィッシングスクール 第2巻 沖縄都市河川溪流/ジャングルパーチ編」(sacom works/著 sacom works しまこみ編集部刊)

全3巻の釣り漫画なのだが、釣り人のマナー向上と安全教育のためのキャラクターとして、沖縄の妖怪の末裔が登場する。

第2巻では、ブナガヤ等の他に、あまり知られていない「仲西へーイ」という郷土妖怪が登場している。

以下はこれまでに紹介済の作品。

「風車祭」全5巻(漫画/栗原まもる 原作/池上永一 講談社刊)



妖怪火を目撃してマブイを落としてしまった高校生**の比嘉武志**。

妖怪火の正体は、228年もの間マブイだけの身となって島を彷徨う娘・**ピシャーマ**だった。

妖怪としては、この他、豚の妖怪が登場する。沖縄舞台の傑作怪奇もの。お勧めです。

「琉球のユウナ」全8巻(響ワタル/著 白泉社刊)



山原で、化け物(マジムン)と話す力を持って一人生活している少女・**ユウナ**。

ある日、琉球国王・尚真王と出会ったことから、第一尚氏と第二尚氏の政権争いの渦中に巻き込まれていく。

ユウナの守護としてシーサーが登場しています。2022年9月刊行の第8巻で完結しました。

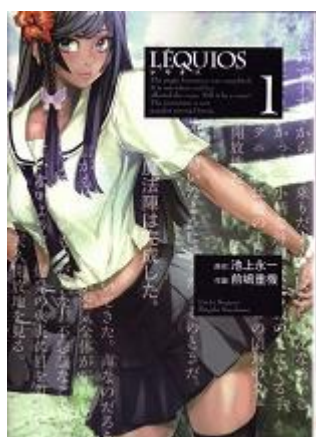
「南国ユタガール」全3巻(餅西 うまし/著 小学館刊)



沖縄に引っ越してきた**佐藤 凧**は、高校生でユタをしている**新垣黒子**と出会い、落としたマブヤーを探すことになる。

2巻からは、二人の背後で復讐のためうごめくキジムナーの存在が明らかとなって対決することになる。

「レキオス」第1~2巻(原作/池上永一 作画/前嶋重機 スクウェアエニックス刊)



県立海邦高校に通う女子高校生**デニス**。類まれな身体能力を持つデニスに聴こえる謎の声。昔、真嘉比のチルーと呼ばれていたという鼻な

し逆立ち女の幻影は、デニスに接触し、友庵をユタに探させるよう、デニスに求める……

※連載中断していて未完結です。

さて、最後に「黒潮源流」(へしきよしのり/作 琉漫工房・作品)を紹介しよう。

本作品は、今は廃刊となった郷土雑誌・月刊「青い海」に17回に渡って連載された、知る人ぞ知る沖縄漫画の黎明期を飾る作品のひとつです。

名護と思われる漁村に、ある日、緑色をした巨大なヒートゥ(くじら、いるか類)が現れる。村は、魔王が現れたと大騒ぎとなる。ほぼ時を同じくして、海から拾われた少女・マリモと似た女から、主人公の真勇・真徳兄弟は、夢で警告を受ける。

漁に出られずイライラが募る村。気の荒い男の一部が、マリモを襲った時、姿を消していた緑色の巨大なヒートゥが現れる。真勇・真徳兄弟は、ついに銚子を持って魔王退治のため出漁するが……。

へしき氏の遺作ともいえる作品だが、郷土マンガの歴史の片隅に埋もれたままになっているのはたいへん残念なので、ここで取り上げたしだい。(コミックチャンプルーで電子書籍化できるといいなと思う。)

掲載誌の「青い海」は、たいていの公共図書館で郷土資料として保存されているので、いつでも閲覧できるのが唯一の救いか。

ちなみに妖怪特集で取り上げているので、本作に登場する緑色の「魔王」(ヒートゥ?)の姿を確認しておくのと、マッコウクジラの姿をしています。



担当/量産工房

追記

今回は、「ハロウィン」テーマに合わせて急遽繰り上げ編集して提供しています。なので、以下のような紹介済類似記事があります。

○第2回 怪奇マンガの中の沖縄!!(5月)

○第6回 ユタ、ノロが活躍するマンガ(9月)